



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより



ためし



令和7年10月22日号 文責 上久木田 雄二

非認知能力



非認知能力とは、意欲、協調性、やり抜く力など、数値で測定できない心の能力を指します。

数値で測定できないかわりに、その行動や言動から判断されることが多い分野でもあります。

この非認知能力がクローズアップされたのも、コロナ期でした。

一斉学校休業が全国で実施され、子どもたちの学びに大きな影響を及ぼしました。このときの子どもたちの姿の反省からにわかに注目されたのです。

「学校がないと学べない子」
「学校以外で勉強する習慣がない子」
「新しいことに自分から挑戦しない子」
「気分をコントロールできない子」

もちろん、発達障害の可能性も否定できません。しかし、私は個人的にこれを

向き合う力の不足

だと考えています。ですから、非認知能力の低さの多くは「向き合う」ことへの困難さから生まれているのだと思っています。

学校という場所は、経験したことのないこと、自分の知らないこと、難しいこと、考えなければいけないことだらけです。多くのことに「向き合う」ことなしに、学校生活を過ごすことはできないのです。

学習活動に向き合うこと
人間関係に向き合うこと
集団生活に向き合うこと

毎日の学校生活の中で、子どもたちは「向き合う」ことを余儀なくされます。これは大人の社会でも同じです。

未熟な子どもですので、最初から未知のことに挑戦する力が備わっているわけではないと思います。

未知のことに挑戦させ、失敗を経て、自分の力として獲得していくのだと思います。

子どもたちが成長する過程で、「向き合う」のは子どもだけではなく。子どもの保護管理責任がある保護者にも、しっかり「向き合う」必要があります。「親になる」ということは、子どもの成長に寄り添い、「向き合う」ことだと私は思っています。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

